

特殊伐採のメリット

特殊伐採とは、大きく分けて“クレーン作業・高所作業車での伐採”と、“アーボリスト・ツリーワーカーによる伐採”の2つがあります。近年、造園会社や個人による参入も目立っています。1つの工期が比較的短く、コンスタントに仕事ができ、大型重機を揃えずとも行えるケースが多いことから、従事者が増えているとのこと。しかし、十分な技術の習得と資機材の導入が必要になってきます。欧米では、街路樹などの木を極力残し育てる考え方が根付いています。なるべく根本から伐採せず、木の成長とともに不要な枝があればその都度除去し、長年にわたり木を管理していく手法をしています。日本でも広がりつつあり、景観や生態系の維持向上に加え、携わる林業事業者などの仕事が持続していくメリットがあります。今後の地球温暖化の影響で樹木成長スピードに影響を及ぼす可能性があることから、高木、老齢木などを対象とする特殊伐採の需要は広がることでしょう。

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

墜落制止用器具の新ルール

墜落・転落災害で命を落としている労働者が、今でも年間200人もいるのはご存知でしょうか。休業4日以上ケガ人も含めると、約2万人もいます。このようなことから、より安全を求める法令として、2019年2月に労働安全衛生法執行令等の改正が行われました。

「墜落制止用器具」と名称も変更され、2022年1月2日からは新しい規格に適合した墜落制止用器具を使用しなければならなくなりました。

胴ベルト型を使うなら、ワークポジショニング用ロープとランヤードの併用が必須!

単独使用NG!
U字つり胴ベルト

林業で従来よく使用されていた安全帯(U字つり胴ベルト)は、墜落制止用器具として使用できません。ワークポジショニング用器具として使用の場合は、作業時に別途要件を満たす墜落制止用器具を追加する必要があります。

前向きになれる一言

嫌いなことでも時には目を向けることで自分の成長を後押ししてくれる。努力は報われる。無駄な努力はない。努力は報われる。

林業現場で使うなら。ここがチェックポイント!

これから続々と登場するであろう、新規規格適合のハーネス製品。林業で使う場合の作業性を考えて、ハーネスを選ぶポイントを3つ紹介。

背中のあるところにあるD環は墜落制止用のランヤードを取り付けるものです。ランヤードを胸部に取り付けることで邪魔になり、身体の前での作業がやりにくい場合などは、ランヤードを背面のD環に取り付けます。

胸部のD環があるか確認しましょう。林業の場合は、胸部にランヤードを取り付ける墜落制止用の環がある方が扱いやすいです。また製品によってD環の向きが縦になっているものと横になっているものがありますので、使いやすい向きものを選択するようにしましょう。

腰部両サイドにD環があるものを選びましょう。ここにワークポジショニング用ロープと伸縮調整器を取り付け、作業姿勢を確保するためのです。

教えてくれた人

榎谷啓也さん
奈良県黒滝村森林組合で20年以上現場作業に従事している。現在は主に高所、樹上伐採を担当。15年以上、林業現場の情報を更新しているブログ「出来杉計画」も運営。

フルハーネス型の着用者が墜落時に地面に到達する恐れのある場合(高さ6.75m以下)は胴ベルト型を使用することができます。

林業では、ワークポジショニングができる、新規規格に適合したフルハーネス型墜落防止用器具を選びましょう。

PETZL アバオ ボッド ファスト

次世代森林産業ビジネス&ライフスタイル

FOREST JOURNAL

trend

次世代に繋ぐ林業雑誌「フォレストジャーナル」さんの特集を参考にさせて頂きました!!